

総務文教常任委員会活動レポート

開催日時：令和4年4月13日(水)

開催場所：1・2号委員会室

総 務 部

ふるさと応援制度推進事業について

1. 寄付金の申し込み状況等について

令和4年3月末現在で6862件の寄附件数で1億1688万3413円になる見込みで、前年度より約213万円の減収となる見込みとの報告がありました。

2. 令和4年度の取り組みについて

- 推進体制の強化
- 返礼品事業者との連携強化
- 返礼品の拡充
- 寄附者へのPR強化

以上4点を大きな取り組みとして体制強化を図る。

※ ふるさと納税公式Instagramを4月1日から開設。

7日間で170人のフォロワーとなっている。

※ 日本ハムファイターズのマスコット、B・Bのブログと連携するなど返礼品の紹介だけでなく、中標津町の特色など興味を持たれる情報発信に努める。

以上について説明がありました。

【主な質疑】

委員：PR強化として、有名なインフルエンサーやユーチューバーに依頼してはどうでしょうか？

担当：インフルエンサーマーケティングを検討しており、知名度の高い方に依頼していく方向です。また、商品の製造過程や事業者からの商品説明、さらに開陽台からの風景など中標津町の魅力発信のためにホームページやSNSでの情報発信を工夫していきます。

委員：新たな商品開発にむけて、町内の事業者との意見交換など、町民から意見を募る機会を持つべきではないでしょうか？

担当：4月から役場内のふるさと納税の体制を強化し、観光協会とも連携して商品開発に力を入れていきます。さらに町民の声を反映できるよう体制づくりを進めます。

委員：他町では町村間でコラボし新商品を開発している事例があります。中標津町も検討してはどうでしょうか？

担当：中標津の商品の魅力や強みが他のまちの商品とコラボすることで新たな返礼品に

できるように、すでに他町との検討を始めたところです。

中標津町行財政健全化計画について

令和３年度から令和７年度までの第８次中標津町行財政改革大綱が示され、第７期総合計画で掲げた施策の着実な推進と、さらなる行政改革と財政健全化の推進について説明がありました。

【主な質疑】

委員：行政改革の推進の中で、超スマート社会の対応を進めるとありますが、ＤＸやＩＣＴなどで業務の効率化、活性化につなげる方策や超スマート社会の構築に向けてどのような対応を考えていますか？

担当：総務課のＤＸなどを担当する部署を強化し、業務の効率化やネットによる諸手続きの省力化など情報化社会に向けた環境づくりを進めます。

委員：歳出の削減には限界があり、税収を増やし自主財源を確保するための投資的な予算などが必要と思うがどのような方策をもっていますか？

担当：単に歳出を削減するのではなく効果的な支出が重要であると考えています。また基金などを取り崩すことがないように収支のバランスをとった上で、税収に跳ね返ってくるような公共事業や民間企業が中標津町に入ってきてやすく、さらに活動しやすい状況となるような投資は、重要であると考えています。

【申し入れ内容】

委員：公共事業の発注は、地元の企業を育てるような発注形態をつくることで、企業の利益が税収につながるように、循環型の利益を生み出す仕組みを考えるべきだと思います。